

アトピー性皮膚炎患者とその家族に対する情報支援

廣段 龍之介

アトピー性皮膚炎患者はウェブを利用して、治療法やセルフケアなどに関する様々な情報を探している。しかし、ウェブ上の情報には信頼性にバラつきがあり、医学の専門的知識やインターネットの利用に精通していない医療消費者は、容易には情報を選択・入手できない現状がある。

本研究では、アトピー性皮膚炎患者とその家族への情報支援を目的とし、医学の専門的知識に乏しい医療消費者が、自らの要望する医療・健康に関わる情報を見つけやすくするために、患者の視点で情報を配列し、その回答となる情報の所在を提示する情報支援モデルを提案した。

本研究では、はじめに患者とその家族に向けて提供されている情報を調査し、その内容から情報要求を明らかにした。次に、把握した情報要求をふまえ、情報源の選定を行った。さらに、患者とその家族が情報を見つけやすいように、提供する情報の配列方法を検討した。

情報要求の調査の結果、提供する情報は、「概念・病因」「症状」「疫学」「医療機関」「診断・検査」「治療」「セルフケア」「精神的影響」「予後」の9項目を選定した。提供する情報の配列は、アトピー性皮膚炎の病気の経過を患者の視点からとらえ「理解」「治療」「ケア」「日常」の4段階で表現することにした。さらに、治療がうまくいかなかったときや病気が再燃したときなどに生じる突然の情報要求を、患者の視点にしたがった情報要求だけでなく、突然の情報要求に対しても、情報要求を満たす情報の有無を知ることができるようになった。

本研究で提案した情報支援モデルでは、アトピー性皮膚炎患者とその家族の情報要求に基づいて提供する情報を決定したことにより、患者が要望する情報の提供を可能とした。また、提供する情報を患者の情報要求の変化と発生に着目して配列することにより、患者とその家族はより、アトピー性皮膚炎についてどのような提供され、また、どこに情報がおかれているかについて容易に知ることができるようにすることができる。本モデルでは、提供する情報の理解を深めるために、用語集および相談窓口についての情報を提供する機能をもたせたため、アトピー性皮膚炎について、情報を一元的に案内することが可能となった。

(指導教員 岩澤まり子)